

# 付着生物ラーバ情報

## 洋上籠洗浄は異常貝の状況を確認し、 暖かい日に行いましょう

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは奥内沖で3月5日に6.7個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で2月27日に1.7個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図2)。

#### (2) キヌマトイガイ (通称: コメガキ)

ラーバは奥内沖で3月5日に3.3個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で2月27日に2.2個体/m<sup>3</sup>、3月6日に20.0個体/m<sup>3</sup>、川内沖で3月6日に117.2個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図3)。

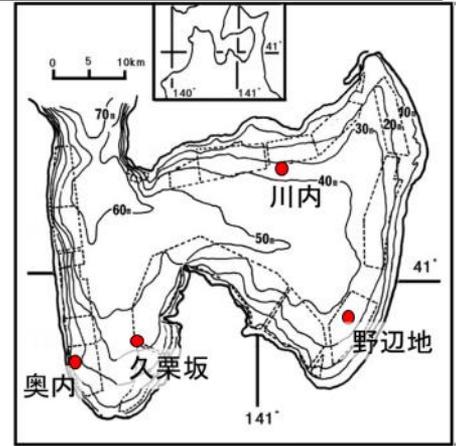


図1 ラーバ調査地点

### 2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層の水温は西湾で7℃前後、東湾で4℃前後です。

#### (1) ユウレイボヤ

ラーバ累積出現数が10個体/m<sup>3</sup>以下の場合には付着が少ないことが分かっています。奥内沖の累積ラーバ数が35.1個体/m<sup>3</sup>と10個体以上になっており、分散済みのパールネットにユウレイボヤの付着が見られています。**大量付着により、今春の出荷作業の効率が低下する可能性**があります。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

#### (2) キヌマトイガイ

ラーバが継続して出現している海域があることから、今後、**籠や耳吊り、マボヤの採苗器への付着が進む**ものと思われます。

※洋上籠洗浄の注意点は  
次ページにあります。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ムサキイガイ	キヌマトイガイ
奥内沖	R6.3.5	6.7	0.8	1.7	3.3
久栗坂沖	R6.2.27	1.7	0.0	0.6	2.2
川内沖	R6.3.6	0.0	0.0	100.8	117.2

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

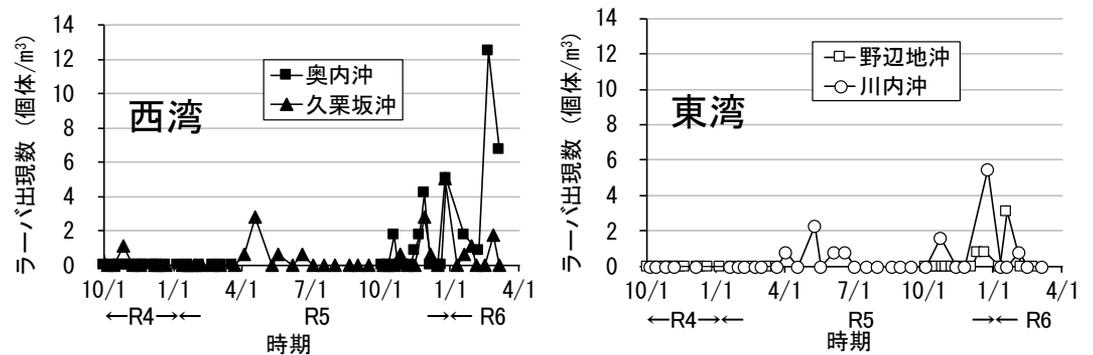


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和4年10月~令和6年3月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

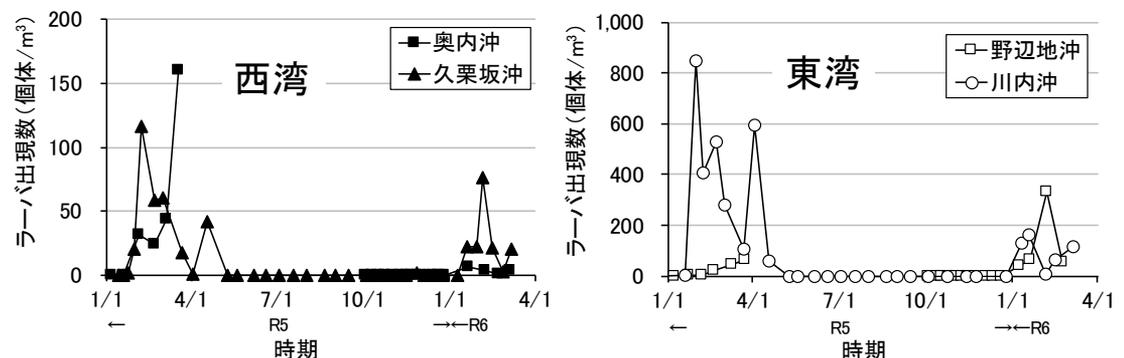


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移 (令和5年1月~令和6年3月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 915個体/m<sup>3</sup>、東湾 4,483個体/m<sup>3</sup>



### 3 洋上籠洗淨の注意点

ホタテガイに異常貝が多く見られる場合、洋上籠洗淨を行うことにより、さらに異常貝が増え、へい死する危険性があります（図4）。洋上籠洗淨は異常貝の状況を確認しながら行いましょう。また、作業はホタテガイが凍結しないように暖かい日に行うようにしましょう。

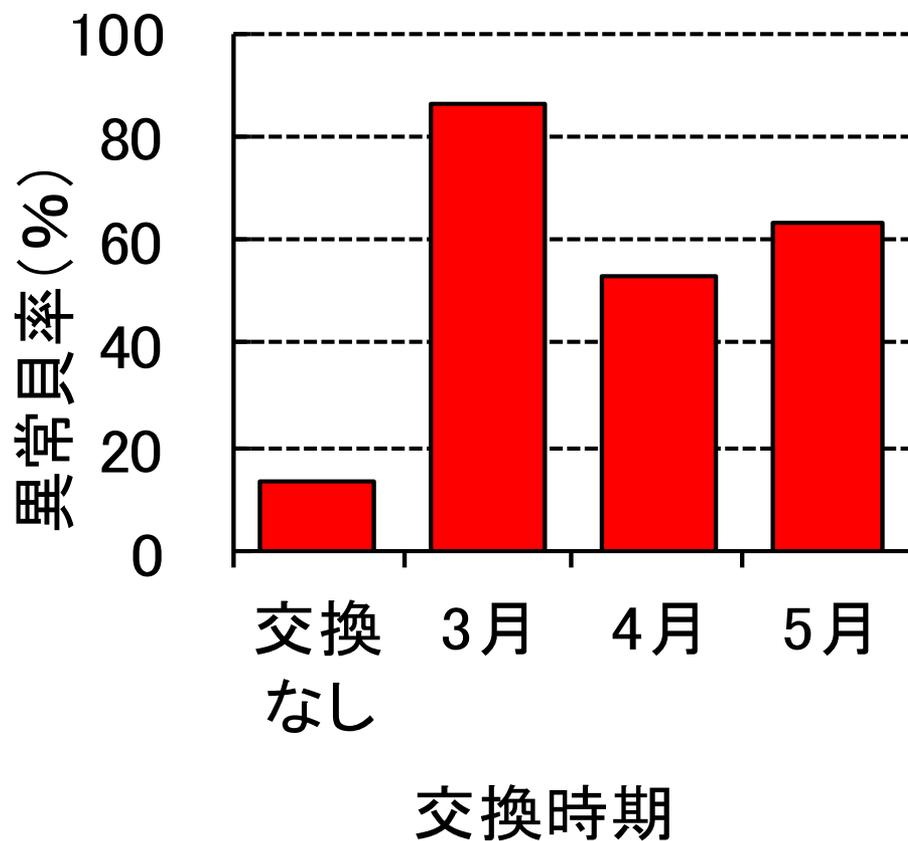


図4 洋上籠洗淨を模したネット交換によるホタテガイの異常貝率  
（西湾で平成29年6月測定）